

Title	「東洋古代史」正誤表
Sub Title	
Author	橋本, 増吉 (Hashimoto, Masukichi)
Publisher	三田史学会
Publication year	1934
Jtitle	史学 Vol.13, No.1 (1934. 4) ,p.157- 163
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19340400-0157">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19340400-0157</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

# 「東洋古代史」正誤表

橋 本 増 吉

「はしがき」にも記して置いたやうに、本書は非常に限られた時間の間に作成しなければならなかつたので、その誤謬も甚しいやうである。そこで「挿繪の位置」「挿繪の説明」「本文」の順序でその誤りを左に指摘する。尤も再版に當りその誤謬の一部分は訂正せられたが、一般には多く初版が配布せられてゐると思はれるので、茲には初版に基いて之れを作製した。なほこの表の作製に際し、和田清氏・西山榮久氏・高田良助氏・間崎万里氏・近山金次氏・杉本忠氏等の注意や援助を得たことを感謝する。

## 一 挿繪の位置

- 1 二〇―二二頁の間にある「ヒマラヤ山脈と崑崙山脈」は二六頁と二七頁との間へ、二四頁と二五頁との間にある「アルタイ山脈と興安嶺」は二八頁と二九頁との間へ移す。
  - 2 一〇―一頁の「パンジヤフ地方風景」を一〇九頁へ、一〇二頁の「黄河の景」を一〇一頁、一〇九頁の「揚子江の景」を一〇二頁へ移す。
- 3 一一―一頁の「カズロフ氏發見の古墳出土品」を一二五頁へ移す
- 4 一二―二頁の「ガンジス河風景」は三五四頁へ移す。
- 5 二三六頁の「周公成王を輔くる圖」は誤つて「荆軻秦王政を刺す圖」を挿入。「荆軻の圖」は削除。
- 6 二四二頁の「專諸吳王僚を刺殺する圖」は削除。或は二四五頁へ移す。
- 7 二四九頁の「豫讓趙襄子を刺さんとする圖」は二五〇頁へ、二五〇頁の「泗水渡頭より防山尼山を望む圖」は二五一頁へ、二五一頁の「至聖林に至る神道の圖」は二五二頁へ、二五二頁の「孔子像」は二五八頁へ移す。
- 8 二九九頁の泰山の圖は上圖が「玉皇頂」下圖が「南行門」。
- 9 三七七頁の「竹林精舍遺址」は三八二頁へ、三七八頁の「祇園精舍遺址」も三八一頁へ移す。
- 10 四五九頁の「蒙古セレンガ河風景」を四六〇頁へ、四六〇頁の「蒙古トラ河風光」を四六一頁へ移す。
- 11 四七六頁の「新疆省庫車附近風景」を四七五頁へ移す。
- 12 四八四頁の「漢宣帝杜陵」を四八三頁へ移す。
- 13 五一四頁の「ヤルカンド河・アクス河合流點」は五二四頁へ移す。

14 五九六頁の次に挿入せる「黨河を望む圖」は五一四頁の次に  
入れる。

15 六〇一頁の圖には漢代明器の圖なし。その表題を削る。「漢代  
泉貨及び錢範」は四五五頁に移す。

16 六三五頁の「石頭城址」は六三四頁へ、六三六頁の「武侯祠」  
は六三五頁へ移す。

二挿繪の説明

頁 誤

正

圖版目次一 アジア州

21 シンガレラより臨む

// 西南方より臨む

32 下圖

33 陝西省

65 シルニダリア

76-77 別  
刷一色版5

101 殷墟契菁華  
Jank-i-zam

104 東洋參考圖譜

109 揚子港

126 カズロフ氏蒙古探險隊

127 パツイクル

144 肉薄彫

170 馬頭ウイシニヌの圖

184 この歴山も

192 至聖林孔家の

アジア洲

シンガレラよりの遠望

西南方よりの遠望

陝西省

シルニダリア

パンペリー探險隊

殷墟書契菁華  
Jank-i-zam

東洋史參考圖譜

揚子江

カズロフ氏蒙古探險隊

パツイクル

薄肉彫

馬頭ウイシニヌの圖

この歴山最も

至聖林は孔家の

263

268

269

270

275

//

293

299

300

352-353別

刷一色版11

356-357別

刷一色版12

377

378

434

450

542-543別

刷一色版14

585-586別

刷一色版16

目次 217

4 4 27

家

長安縣咸陽

唐風樓秦漢瓦當文學

地圖 115°×30° 昔

蘭桐如

前掲著者に據る

泰山嶽廟

王皇頂は泰山の最高頂で

秦の李斯の筆

ハイヴェル

ハイヴェル

竹林精舎遺址

祇園精舎遺址

吐魯番

二番目から

東洋歴史參考圖譜に據る

シャヴァンヌ氏に據る

三本

誤

婆羅門哲學の發表

而し

「するに」を削除す

阿爾金山脈

家

咸陽縣咸陽

唐風樓秦漢瓦當文字

楚

蘭相如

前掲著者に據る

泰嶽廟

王皇頂は泰山の最高頂で

秦の李斯の筆

ハイヴェル

ハイヴェル

竹林精舎遺址

祇園精舎遺址

スタイン氏前掲著者に據る

吐魯番

二番目が

東京帝國大學考古學教室藏

東洋歴史參考圖譜に據る

正

婆羅門哲學の發展

而も

阿爾金山脈

阿爾金山脈

37	33	祁連山脈 楊子江	99	6	楊子江 土耳其方面	揚子江 土耳其斯坦方面
44	5	南方系統	100	11	直隸	河北
45	15	Group	103	3	バルチスタン	バルチスタン
46	8	Phutan	112	5	De Morgan	De Morgan
47	8	通古斯人	121	14	固執すき	固執すべき
48	2	獵狃・獵鷹	126	15	問題となつてゐる。	をとる
60	4	類似ありとなすも	128	7	Bodhi tree	Bodhi tree
64	8	上流の地に遷徒	132	6	鍛冶	鍛冶
72	14	論ずる餘りに	133	6	麥酒(Sama)	(Sama)
74	4	仰韶村	134	4	雷霆	雷霆
75	1	拓本影印して	135	3	之れを贖ふなこと	之れを贖ふこと
93	12	あるなし	141	10	官廷	官廷
97	15	楊子江	144	6	ドクタライシエトラ	ドリタライシエトラ
98	1	楊子江	145	11	司法(Pravivak)	(Pravivaka)
99	2	楊子江	147	4	上司	上司
			154	9	ある。	ある。
			155	2	なすので○	なすので○
			162	9	意味せしものとあらう	意味せしものとあらう
			164	2	陝々となり	陝々となり
			176	14	時々女は	時に女は
			185	7	御車として	御者として
				12	御車として	御者として

200	1	毫	長沙王吳芮	320	4	諸王に治國の	長沙王吳芮
202	1	廻ち	常に歳幣を厚うし	320	15	夏は來徳なるが故に	常に歳幣を厚うし。或
204	1	有扈氏	夏は來徳なるが故に	330	15	婆羅門哲學の發展一	夏は木徳なるが故に
209	10	陳	婆羅門哲學の發展一	338	2	(Siksa)	婆羅門哲學の發展
220	3	典藥	(Siksa)	341	13	(Vidyā; Kennthis)	(Siksa)
233	4	戒狄の俗	(Vidyā; Kennthis)	343	2	(Prusa)	(Vidyā; Kennthis)
237	5	安蓋王	(Prusa)	345	12	(Sankhuyayoga)	(Prusa)
"	11	賢臣に任じ	(Sankhuyayoga)	347	4	肉欲を恣にし	(Sankhuyayoga)
"	"	獵狘	肉欲を恣にし	"	9	濕婆(Siva)	肉欲を恣にし
251	14	曲沃	濕婆(Siva)	353	2	後半	濕婆(Siva)
252	3	政權を左右してた。	後半	358	8	またのどなる	前半
258	4	孔子が時に	またのどなる	365	14	(Purana Kassapa)	またのどなる
"	14	八佾	(Purana Kassapa)	366	3	(Ajita Késaka, bali)	(Purana Kassapa)
281	10	媒介物	(Ajita Késaka, bali)	"	6	(Pukudha Kaccāyana)	(Ajita Késaka, bali)
294	3	西南は戎州	(Pukudha Kaccāyana)	"	9	(Sanjaya Belatthiputta)	(Pukudha Kaccāyana)
303	9	(序に	(Sanjaya Belatthiputta)	369	8	婆若(Pañña 即ち慧) 明(Vijja)	(Sanjaya Belatthiputta)
"	11	坑にするか	婆若(Pañña 即ち慧) 明(Vijja)	374	8	意志が識	婆若(Pañña 即ち慧) 明(Vijja)
306	9	福建	意志が識	375	11	長壽なるは	意志が識
309	12	吳中會稽	長壽なるは	377	4	阿羅漢	長壽なるは
"	"	(浙江省……)	阿羅漢	379	3	(Panchala)	阿羅漢
318	5	黠布	(Panchala)	"	4	(Surasena)	(Panchala)
			(Surasena)				(Surasena)

432	2	東邊	(Kosala)	乃を	494	11	乃ちをとる
"	"	"	(Kasi)	鳥孫國	493	3	Khotan
"	6	(Savatthi or Sravasti)	(Savatthi or Sravasti)	Khotar	487	6	葉爾羌
"	7	(Baagrha)	(Bajagrha)	葉爾羌	483	3	固めたのであつた
"	"	(Lichhavi)	(Lichhavi)	固めたのであつた	481	12	なつたので
"	8	(Gandhara)	(Gandhara)	なつたので	477	4	採掘製練鑄造し
"	10	(Sisunaga)	(Sisunaga)	製造を請受けし	475	4	製造を請受けし
"	13	(Bimbisara)	(Bimbisara)	左道を以て衆を惑し	462	13	巫道を以て衆を惑し
330	2	(Bhagalpur)	(Bhagalpur)	また酒權の官を罷め	462	13	また酒權の官を罷め
"	3	吠舍利王	吠舍利王	盧屠王	470	15	盧屠王
381	14	西紀前六〇六	西紀前六一二	之れを東に徙し	475	4	之れを東に徙し
383	2	クサルクセス王	クサルクセス王	途中途亡せるもの	477	4	途中途亡せるもの
383	5	クセルクス王	クセルクス王	車鞞單子	"	8	車鞞單子
384	1	(Bajlon)	(Bajlon)	呼韓邪于に降り	"	11	呼韓邪于に降り
405	15	信者等を懐柔して	信者等を懐柔して	形勢をなして	480	9	形勢をなして
408	9	粗撲	粗撲	星靡が大昆彌となつた	481	12	星靡が大昆彌となつた
411	417までの	柱 亞細亞の亞の字脫	柱 亞細亞の亞の字脫	吹 Ohu on	483	3	吹 Ohu or
412	2	(De Guignes)	(De Guignes)	漢の天下は方の	487	6	漢の天下は方に
414	10	懐柔政策	懐柔政策	收攬するに努めた	488	6	收攬するに努めた
426	5	生擒せられしも	生擒せられしも	人心の收攬に資し	491	1	人心の收攬に資し
427	9	長安に歸着	長安に歸着	人心を收攬し	493	3	人心を收攬し
"	12	(今の Ferghana 地方)	(今の Ferghana 地方)	人心の收攬に努め	494	11	人心の收攬に努め
432	2	東邊	東邊	ついで王莽は			ついで王莽は

498 12 山西省冀寧道

山西省冀寧道

523 4 耿恭

耿恭

498より499頁の間二頁を脱す

數千人を聚め

益々退裔的

益々退嬰的

499 4 數千人を娶め

數千人を聚め

西域諸國に

西域諸國を

// 13 南都

南都

527 4 司馬任尙

司馬

// 14 新都(….)別

新都(….)の兵となる。別

529 7 見ても恰もヘルナクの時代に相當するより

見て恰もヘルナクの時代に相當するに

501 1 旗旌輕重千里絶えざる

旗旌輻車千里絶えざる

523 9 歐羅人

歐羅巴人

// 9 定陵に出り

出で

533 5 安息縣

安息國

502 3 吊する

吊する

534 8 基石

礎石

503 5 こゝに始めて劉玄にその

こゝに始めて劉玄に

535 9 五翎侯(Yaghub)

(Japku)

// 12 盆劉子

劉盆子

536 15 これ等が

これ子が

504 3 劉玄の軍を嚴破し

擊破し

537 3 恒河支流

恒河支流

// 9 洛南

洛南

// 4 ヲラツ

ツラー

507 4 博士十一人を置き

博士十四人を置き

538 1 クシヤンニヤツン(Kushan Yaghub)

クシヤンニヤツン(Kushan Japi)

// 12 に分れて

下して

クシヤンニヤツン(Kushan Japi)

510 13 三公に下した事

漢に

539 3 Ooema

Ooemo

513 12 漢は來附した

漢に

540 1 恒河

恒河

514 4 更に賢を賜ふに

更に賢に賜ふに

541 9 ツンラツスト教

ツンラツスト教

517 12 南單于死し比弟

此の弟

542 11 (Asvaghōsha)

(Asvaghōsha)

519 1 拘はれて

捕はれて

// 9 (Pars'va)

(Pars'va)

520 8 書なほ之れを閉する要

書なほ之れを閉すの要

// 13 (Vinaya-vibhāsa)

(Vinaya-vibhāsa)

// 9 議ある及び

議あるに及び

549 8 阿毘達磨智論

阿毘達磨發智論

520 11 實情を使示

實情を指示

551 9 經・律・三藏

經・律・論の三藏

521 1 (新疆省迪化道)哈密(Hami)縣の地

(新疆省迪化道哈密 Hami 縣)

552 1 經部を轉じた

經した

560	7	阿頼耶	阿頼耶識
563	14	阿輪迦王	阿輪迦王
573	12	五湖十六國	五湖十六國
575	4	九眞に徒らしむ	徒しむ
576	12	和帝の扶けて	和帝を扶けて
578	7	聰明伶俐	聰明伶俐
582	1	廣成	廣城
583	1	賊情の窺つたが	賊情を窺つたが
604	11	その年代の頃までに	その年代の頃までは
〃	15	最後とすなも	となすもの
606	7	國境に達する	達するまで
607	10	羅馬帝皇	羅馬皇帝
611	7	セヴェラス	セヴェルス
〃	9	かくれたので	かくれたので
〃	10	應じなかつた爲に	應じなかつた爲めに
〃	12	王位を篡奪	王位を篡奪
614	14	(Pabak of Pabek)	(Pabak or Pabek)
617	11	(amazdayasn)	(mazdayasn)
〃	15	命ぜられるので	命ぜられたので
628	6	程普	程普
633	4	新山	新山 <sup>キ</sup>
637	3	ところである	ところであつた
638	標題	一二	一一
641	8	嵇康	嵇康

「東洋古代史」正誤表（橋本）

(第一五六頁より續く)

註二、グローゼル問題とは一九二六年頃南佛ヴィンイ附近見された新石器時代アルファベットなるものを中心になされた論争を指す。サルモン・レイナク、ワン・ゲネツプが之を支持し、訴訟まで起つたが今日は大體その偽作たことが認められてをる。

註三、氏は本講演の劈頭に「慎重」の必要を説き、その講演中に討論、質問、反駁あらんことを希望した。